

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 国際交流を推進し、国際理解を深めるとともに、コミュニケーション能力、英語能力を伸ばさせる。さらに、英語の民間試験の積極的な受験を奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> 高女グローバル研修in USAの参加者40名を確保し、参加した生徒の中で「行って良かった」と考える生徒の割合が90%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去4回課題を踏まえ、業者・職員間の連携を図りながら、内容をさらに充実させる。また、情報収集にも努め、臨機応変な対応をする。発表会やWebを活用し、生徒や教員への研修内容や成果の周知に努める。 全てのプログラムの改善、効果的な情報発信に努め、魅力的なプログラムを実施する。 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大により、今年度のグローバル研修in USAおよび1学期実施予定の他の様々なプログラムを中止とした。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 上記以外のグローバル人材育成のための講演会等の各プログラムに満足している生徒が80%以上である。 		<ul style="list-style-type: none"> 英語科との連携のもと、実践的なコミュニケーション能力育成のため、さらなる授業改善や検定に関する情報収集に努める。学校申し込みの機会を設け、受検を促す。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに実施したオンライン講演会は生徒25名が参加した。今後は生徒の安全を第一に、可能な範囲で代替のグローバルリーダー養成のための研修を実施したい。現在、エンパワーメントプログラムを計画中である。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 3年の時点で、英検2級相当以上の生徒の割合が90%以上である。 			A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナのため、第1回英検の受検を控えた生徒もおり判断は難しいが、英検やGTEC等のCEFR換算点を見ると、3年生の90%以上が英検2級相当に該当する。2学期以降も受検予定の生徒がいるので、今後も英語科と連携し、指導していきたい。 			
	2 探究活動を通して、主体的に課題解決に当たれる資質と能力を育て、さらに物事の本質をとらえる視点を養い、国際社会で活躍できる力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究・学習の時間（課題研究など）に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒の割合が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 高女の総合的な探究において、探究活動推進委員会や各関連機関と連携し、教員間の共通理解のもと、外部機関の訪問やフィールド調査等を推進し、「課題研究」の内容整備をさらに充実させる。また、指導体制を整える。 生徒・職員の図書館利用及び図書の貸し出し数の増加を図るため、きめ細かな図書館運営と魅力ある図書館づくりを心掛ける。(読書カード、職員への購入希望図書調査) 課題研究の充実に対応した、図書の整備とレファレンス機能の充実を図る。 	B	B (生 86.6%) (保 75.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 1、2年は今後研究が本格的になってくる。コロナの影響でフィールド調査は制限される部分もあるが、安全に配慮しつつ、委員会や関係機関と連携しながら、指導していきたい。また、学年により、生徒のアンケート結果に差があるので、分析し、改善に努めたい。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 図書の貸し出し数が、年5500冊以上である。 			B	B	<ul style="list-style-type: none"> 4月～9月17日までの貸し出し数は1707冊で、昨年同期より1019冊少ない。これは、コロナウイルスによる休校が大きく影響しているものと思われる。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 課題研究など教育活動に必要な図書が手に入りやすいと感じる生徒が70%以上である。 			B	B (64.7%)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へのアンケート結果は、昨年より11.9ポイント下回っている。今後、三菱みらい育成財団の寄付金を活用し、図書の充実を図る予定である。 			
	3 新教育課程を円滑に推進し、併せて「新大学入試制度」への対応の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に対応した教育課程を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現教育課程が抱えている各教科の問題の解決を図りながら新教育課程完成に向けて各教科の意見を吸い上げ調整する。 	A	—	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な始動はこれからであるが、既に原案づくりには取り組んでいる。教育課程検討委員会でしっかり検討していく。 				
					B	B (生 62.4) (保 61.0)	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と比較し、生徒・保護者とも数値が下がり、目標にも届いていない。さらに主体的・対話的な授業になるよう、改善に努める必要がある。 			
					A	B (生 78.9) (保 66.3)	<ul style="list-style-type: none"> 55分授業の運用は円滑に行われている。 			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 自己の明確な目標を持ち主体的に学習する姿勢と継続的な学習習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する生徒の達成感、満足感を持っている生徒が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学年と連携し授業やLHRを用いて生徒が主体的な学習を維持するための方策を実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に関わる校内研修委員会はすでに2回実施した。その研修で共有できた課題を本校の教育目標と改めて照らし合わせ、今後の授業改善に活かしていきたい。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 55分授業の円滑な運営を行うとともに、効果的な運用法を検討していく。 生徒の現状を踏まえた上で授業改善に係る研修を年2回以上行う。 			A	A				
	5 55分授業の導入において、課題に対して「自らの考えを記述し、発表する」授業体制を心がけ、併せて基礎学力の定着及び発展的な学習に取り組むことのできるよう授業を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 55分授業の円滑な運営を行うとともに、効果的な運用法を検討していく。 生徒の現状を踏まえた上で授業改善に係る研修を年2回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事などを踏まえながら55分授業が円滑に運営されるとともに、他校の運用法等の情報入手する。 校内研修推進委員会と連携し職員研修を充実させ必要な取り組みを行う。 	A	A					

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	6 習熟度別授業や個別指導を通して、生徒個々の弱点の強化と学力の一層の向上を図る。	・習熟度別授業が有効である、先生は丁寧な指導をしてくれる、と感じる生徒の割合が80%以上である。	・各教科内で密に連絡を取り習熟度や個別指導を有効なものとし、きめ細かい指導を実践する。	A (生 86.6) (保 75.5)	・習熟度別授業は概ね効果的に運用できているので、今後は個々の生徒に対して効果的な指導を深化させる必要がある。				
	7 学習意欲の高い生徒の更なる学力の伸長と課題を抱える生徒への学習援助をより具体化する。特に、本年度は早期に学習課題を抱える生徒への課外の義務化と高い目標を持つ生徒への個別指導の充実を図る。	・生徒各自がその現状を踏まえ、明確な目標を持ち、高校生活を送っていると考える生徒が80%以上である。 ・将来の夢や希望の実現を支援する取り組みを学校が実施していると考えられる生徒が80%以上である。	・LHRや面談など様々な機会を通して、生徒に自らの現状を理解させ、各自の「高めの目標」を設定させる。また、その実現に向け支援を行う。 ・チーム難関大や上位者向けの個別指導を行うとともに、下位者補習・学習会についても学年と協力しながら確実に実施していく。	B (生53.2%) (保58.9%)	・分散登校や休校の期間が長く、本来計画されていたものが十分に時間をとって指導できていない。時間の確保に努めたい。				
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	8 学校中心の生活を確立させ、個々の居場所づくりに努める。	・いじめについては、積極的に認知するようにし、解消率100%とする。 ・部活動や授業活動において、80%以上の生徒が、充実していると回答できるよう学校環境を整える。	A A A (86.9%)	・7/15実施アンケートでは認知ゼロ件。「いじめを見た」1件であったが、担任した学年で調査したところ、思い違いで本人はいじめられたと感じていないことが分かった。今後も教員が生徒の活動を積極的に認め肯定する態度につとめる。 ・コロナ禍で軒並み部活動の成果を発表する場面が失われたのは残念であった。今後は専門科目の指導力向上に努めるとともに、行事や部活動では人間関係作りに配慮し、生徒が意義を見いだせるよう指導する。				
	9 生徒の小さな変化に気を配り、学級・部活動等の関係者で情報を共有する。	・生徒との面談では必ず人間関係について確認するなどし、週1回の学年会議で必ず情報共有を行い組織的に早期対応につとめる。 ・欠席が3回連続した生徒へ声掛け等の適切な対応を実施する。 ・欠席連絡票を活用し、3日連続で欠席した生徒に適切な対応を行い、関係者で情報を共有し組織的な対応を図る。	・生徒が気軽に悩みや相談ができたりSOSを伝えやすい人間関係の構築に配慮する。またクラスや部活動を通してコミュニケーション能力を高める。 ・担任・学年と生徒の情報を共有し、連携して生徒に応じた声掛け等の適切な対応を実施する。 ・欠席生徒に対し担任、保護者、教育相談、保健環境部等と連携をとり、早期に対応する。	A B A	・些細なことでも相談してよいという相談しやすい雰囲気をもったクラス作り、部活動運営に心がけるとともに生徒情報は必ず会議で共有する。 ・欠席が連続している生徒への対応について、担任が抱え込まないように連携を取る。欠席しそうな生徒に気づき、適切な対応を実施して問題を未然に防ぐ。 ・欠席連絡票を活用し、3日連続欠席の生徒への対応を継続し、担任や学年、教育相談部等と情報を共有する。				
	10 課題を抱える生徒への対応は、生徒指導・教育相談・スクールカウンセラー・担任・学年等の連携したチームで情報を共有して対応し、外部機関とも連携する。	・学期毎に教育相談週間と、いじめ悩みアンケートを実施することで、不安や課題を抱える生徒へ対応する。相談部の定例会議で情報の共有を毎週行い、必要に応じて外部機関とも連携する。	・定例の教育相談会議を実施することで生徒情報を共有し、担任、部活動顧問、学年、教育相談部、スクールカウンセラー等による支援チームを組織して対応する。必要に応じて外部機関とも連携する。	A	・悩みアンケートや教育相談週間による面談を実施し、生徒支援に繋げる。定例会議で情報を共有し、学年を超えた、より細かい支援体制を築く。				
	11 生徒主体の学校行事を通して、自主性、寛容性を育み、リーダーシップとコミュニケーション能力の伸長を図り、協力・協働活動を通して生徒の孤立を防ぐ。	・クラス全体で意欲的に行事に取り組み、それぞれの立場で活動に貢献するなどして、満足している生徒が80%以上である。	・行事への取組を通してリーダーシップを育成するとともに、協力して成果をあげるよう積極的に貢献できる能力を高める。	—	・1学期は新型コロナウイルスの影響で学校行事がことごとく開催できなかった。今後は、「学校の新しい生活様式」に準拠し、かつ生徒の意見を取り入れた学校行事が開催できるよう準備していきたい。				

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	12 目標に向かい他者と協力する体験を通して、思いやりがあり、高い志を持つ、バランスのとれた人材を育成する。	・各生徒組織内の人間関係が健全に保たれ、互いに協力したり支えあえていると感じている生徒が80%以上である。	・他者の特性や能力を鑑みて、適切な助言や支え合いの心を育成するようにする。	B	B	・休校及び分散登校により、他者と交流する機会が少なかった。今後は協働的な学習や学校行事により、互いに支え合う人間関係を構築させていきたい。			
	13 生徒個人の、そして部全体の達成目標を生徒自らが設定し、工夫して部活動を運営する体験の機会を作る。	・部活動の内容や成果、教員の指導に満足している生徒が80%以上である。	・部活動と学習の両立や目標に対して友達と励ましあいながら果敢に取り組める力を育む。	A (81.0%)	B (生81.0%) (保75.8%)	・コロナ禍で軒並み部活動の成果を発表する機会が失われたことは残念であった。今後は部活動の全体目標と個々の目標を明確にし、互いが貢献し合ったり助け合ったりしながら活動が運営できるように支援する。			
	14 技術向上と学習時間確保のための工夫ある練習を計画し、個人と部の目標を達成させる。	・個々の目標を達成できていると実感する生徒が80%である。	・生徒個々のニーズを理解することにつとめ、学習との両立を促す指導を心がける。	—	—	・コロナ禍で、生徒が目標達成会を実感する機会がなかった。2学期以降開催される大会等により、生徒の達成会を確認したい。			
	15 週に一日、長期休業中の一定期間の部活動休養日を設け、生徒の健康と学習の充実を図り、併せて教職員の健康に寄与する。	・適切に休養をとり、健康や学習に配慮し、健全に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・休養日等を計画的に明示し、生徒の健康や学習活動に配慮した活動を行う。	B (78.8%)	B (生78.8%) (保75.5%)	・コロナ禍で部結成が遅れたり、部活動が制限された。再開した部の活動方針に則った練習計画を1か月前に提示して、生徒・保護者の理解を得る。			
		・学校保健委員会を年2回以上、安全衛生委員会を4回以上開催する。	・学校保健委員会及び安全衛生委員会を計画的に開催し、生徒・職員の健康促進を図る。	B	—	・6月の成果発表会が中止になり、昨年度の学校保健委員会の報告は行わなかった。12月に学校保健委員会を実施予定。また、安全衛生委員会は9, 11, 1, 2月に開催予定。			
	16 本校の置かれた立場を生徒・教職員ともに理解し、仲間を思いやり、命を大切に学校生活を構築する。	・校内を整理整頓し、安全で健康面に十分留意して生活できている生徒が80%以上である。	・整理整頓や清掃活動に職員生徒とともに熱心取り組む。	A	B (生89.5%) (保77.6%)	・昨年度同様、保護者の数値が生徒と比べて低いが、概ね整理整頓・安全面に留意して生活できていると思われる。今年度はコロナウイルスへの対策に特に留意したいと考える。			
		・年5回の教育相談だよりを発行する。	・良好な人間関係の作り方やストレスを減らす方法、互いに尊重する意識の高め合いを育む。	A	A	・現段階において、教育相談だよりで、保護者や生徒に向けて、社会情勢や学校行事に合わせたアドバイスや、スクールカウンセラーからのメッセージ、相談機関の紹介などを伝えることはできている。継続して活動していきたい。			
	17 登下校における交通規則の遵守と安全確認を心がけ、時間と心に余裕を持った行動・生活を確立する。	・年間の自転車事故件数が7件以内である。	・登校時指導の充実した交通安全教室の早期開催や便りなどの発行により、安全教育の向上を図る。	B	B	・4月から8月の5ヶ月間で事故件数は4件でいずれも1年生。前方不注意が目立つ(2件)。正しい運転中でも危険予測を怠ることで事故が発生することや加害になった時の重大性を理解させる。			
	18 学校施設の安全点検、環境整備に努め、事故のない安全な学校環境を整備する。	・各清掃担当者が場所別点検表を月1回提出する。	・場所別点検表を活用し、学校安全点検を定期的に行う。	B	B	・月1回の場所別点検表を活用し、定期的な安全点検を実施している。			
		・年2回防災避難訓練を実施し、防災意識を高める。	・現実に近い形での防災避難訓練を実施し、生徒職員の防災意識を高める。	A	A	・6/5の第1回防災避難訓練はコロナ禍での分散登校のため実施できなかった。第2回は10/30に実施予定。			
		・校内巡視を毎日、校外巡視を毎週実施する。	・労務職員による施錠巡回に合わせ、目視による確認を行うとともに、事務長、事務職員による敷地内外の巡視を実施する。			・校内巡視を毎日実施し、学校施設の安全点検に取り組むことができた。今後も校外巡視を増やし安全な学校環境を整備する。			

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	19 個別の進路相談により、志を高く持たせてワランク上を目指す意識を醸成し、学力の伸長を図る。	・個別の進路相談などにより、自己の現状を認識し、通常の授業以外に土曜講座・課外補習・特訓講座等を受講することで、学力の向上に努めようとしている生徒が90%以上である。	・生徒面談等の機会を使い、生徒に現状を正しく認識させ、それぞれの講座・課外・補習ごとにターゲットとなる生徒を明示したり、テーマを持たせることで、より多くの生徒が参加するように工夫する。	A	A	・休校期間中、担任による面談はグループクラスルーム等を用い、できるだけ実施してきた。また生徒は土曜講座など積極的に参加し学力向上に努めている。今後も生徒のニーズに合った講座等を用意しきめ細やかな指導を心がけたい。			
	20「椎樹プラン」を活用し、キャリア教育を通して、早期に進路目標を明確化し、学習への動機付けを図る。	・自己の将来を考え、興味関心や得意分野などを職業と関連づけて進路目標を設定し、その実現に向かい努力している生徒が80%以上である。	・「椎樹プラン」の中の、生徒が充実感を得られる進路行事等を積極的に活用することにより、自らキャリア意識を高め、進路実現のためという認識を持って学習に取り組む姿勢を育成する。	B	B (生60.7%) (保59.4%)	・分散登校や休校の期間が長く、本来計画されていたものが十分に時間をとって指導できていない。時間の確保に努めたい。			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	21 学校公開・学校評議員会・学校評価アンケート等を活用し、地域や保護者の視点を生かし、地域に開かれ、より信頼される学校を目指す。	・保護者向けの「公開授業」を年5回程度実施する。 ・中学生向け学校説明会や施設見学会を開催するとともに、学校評議員会は年2回開催する。	・PTA総会や学年PTA等の機会を活用して授業公開を行う。 ・説明会は、参加者にアンケートを実施し、内容や開催時期などの次年度に向けた説明会の検討データ収集に勤める。	—	—	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、PTA行事の多くを中止した。来年は目標が達成できるようにしたい。 ・学校評議員会は現時点で1回実施できたが、中学生向けの学校説明会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。今後は高女Webページの「オンライン学校説明会」を充実させたい。			
	22 学校説明会、中学校訪問等の広報活動に学校全体で計画的かつ積極的に取り組む。	・学校説明会の参加者が1100人(生徒)以上である。	・学校説明会を生徒主体により充実させ、複数回実施する。	—	—	・中学生向けの学校説明会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。来年も1100人以上を目標にしたい。			
	23 Webページ、学年通信、学校通信、各新聞社等を通して、本校の教育活動の特徴を積極的に公開、情報発信して、広く関係者の理解を深める活動に積極的に取り組む。	・学校行事終了後にWebページを随時更新する。 ・「高女通信」を定期的に発行する。	・Webページを情報発信の柱と位置づけ、タイムリーな更新とデザインの整備をはかる。 ・「高女通信」を適宜発行し、学校の教育活動を家庭に向けて効果的に発信する。	B	B	・情報発信のためのWebページの更新等は、随時行っている。			
	24 本校のよさを中学生のみならず小学生にも伝え、早期に本校への志望の確立を働きかけるための広報活動を積極的に進める。	・高女の良さを伝える「学校案内」を充実させ、高女の広報に役立たせる。	・「学校案内」を多角的に充実させ、中学生等に高女の教育活動をアピールする。	A	B	・学校説明会の中止をうけ、「学校案内」の配布については各市教育委員会の協力を受けながらその配布に努めるとともに、webページの活用や、部活動等を活用した地域小中学校との交流を進める。			